

2022 年 9 月
1170 号



一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町 5

(一冊の会研究室)

2023 年 FAWA に向けて、前進！

～9 月 櫻華塾～

9 月 11 日は大槻会長の誕生日。一冊の会の発足の場所であり、今年移転した杉並区の新事務所で米寿を元気に迎えられました！25 日には今年度 2 回目の櫻華塾をズームで開催、新しい事務所で更に一冊の会として飛躍し前に進みます！Let's Go！と大きな第一声から大槻会長の講義開始となりました。

■平和への想いと、平和な世界実現に向け草の根での世界との交流（大槻会長）

9 月 12 日からニューヨークで国連総会が行われています。今回も議題となっている事項に「核兵器廃絶」があります。1957 年に世界の科学者が集まり、科学者の立場から戦争と平和に関する諸問題を討議する為に会議を開催しました。核兵器開発によって人類は全滅の危機に直面しているとして、核兵器の脅威から逃れるには戦争を廃絶するしかないと話しました。

大槻会長のお父様は、会長が幼い頃に戦争で亡くなりました。お父様は亡くなる前に会長宛に「戦争は人間の理性を狂わせる。話し合いで解決できることは山程ある」と手紙に書き留めています。それが大槻会長の平和への強く熱い想いの原点となります。

戦争ではなく話し合いで解決することは大切ですが、その為には長い付き合いが必要となります。一冊の会は、冷戦の時期に、識字支援として日本、アメリカ、ソ連をつなぎました。1989 年 2 月にソ連の小学生に日本から本を持参し、お返しに本を預かりました。同年 9 月、アメリカの小学校に日本の教科書を送る機会を得て、ソ連の小学校から頂いた本も送りました。そこで頂いた本はソ連に送り、3 カ国を本で結びました。当時大統領夫人であったバーバラ・ブッシュ女史から感謝の手紙を頂いております。このことが実現できましたのも、当時のソ連の大統領ゴルバチョフ氏の日本語通訳ビクトリーキム氏と家族ぐるみの交流や、労働運動家であり元日本労働組合総評議会事務局長である岩井章氏との長いお付き合いの賜物です。岩井氏とは、最初はストライキを巡って意見が異なりましたが、パート勤務が多い日本ではストをすると給料が貰えません。大衆のためにはならないことを申し上げたところから、一冊の会の活動に感銘をうけてくださり、それから長く発展途上国への文房具贈呈活動を支援して下さいました。ビクトリーキム氏は来日時大槻宅を訪ねて下さり、一冊の会の精神を称えて下さいました。

会長は、心の交流というのは誰人であろうと大衆でもできる事を、身をもって感じられたとのこと。一冊の会は 1990 年国際識字年を契機に文具を中心に世界に贈呈活動を開始。当時ユネスコ事務局長であったマヨール氏の御尽力で、フランスへ日本の絵本を届けることも出来ました。

一冊の会の精神の一つである「平和」。持続するために活動を若い世代に広げることも大切です。当時は、まだ幼かった大槻会長のお孫さんや岸田さんの娘さん高田八重子さんのお子さん達が鉛筆収集活動を行いました。現在、卜部恵さんが広島で平和の為の取り組みをしています。平和に対する想いをさらに若い世代に繋いで参ります。

■タンザニアへの文具支援—現地の小学生からお礼の手紙と絵が届く（小山副会長）

2006 年に一冊の会では日本タンザニア友好協会を発足されました。発足前から今に至るまで長年タンザニアの子どもたちへの文具支援を持続し、現地で幼稚園の創設もいたしました。2021 年 12 月にタンザニア連合共和国大使に就任されたバラカ・ハラン・ルヴァンダ閣下へ、今年の 5 月に鯉のぼりや文房具等、女性や子どもたちが喜ぶものを寄贈いたしました。その際、ルヴァンダ大使から一冊の会に御礼がしたいと申し出がありました。大槻会長がタンザニアの子どもたちの絵を見たいと依頼しましたところ、この夏にタンザニアの小学生から、一冊の会が寄付した鉛筆を使って描かれた絵と手紙が届きました。小学生 45 人の生徒皆が書くタンザニアの動物の絵等は、一冊の会へ大変素晴らしいプレゼントとなりました。これからも一冊の会では支援を続けて参ります。



■カンボジア赴任の報告（山内）

昨年末からカンボジアに渡航し、一時帰国しました。この機会に、カンボジアのことを少しお話させていただきます。

カンボジアといえばアンコールワットが有名です。私は首都から車で 7 時間のバットンバンというところにいます。1 年の半分が雨で、半分が乾期です。道路も穴があいているところが多く、日本の企業が道路を作っています。日本の道路は作るのに時間がかかるが、壊れないと評判です。

カンボジアは 1970 年代からの内戦の影響で識字率が低く、まだ小学校が不足しています。現地では多くの日本の NGO や若者たちが汗を流しています。今後も定期的に教育現場や地雷除去の現地の様子を報告したいと思います。



■石田理事長の著書『政治家の条件—議会政治の父・尾崎行雄に学ぶ「有権者の心得」—』の感想（平間）

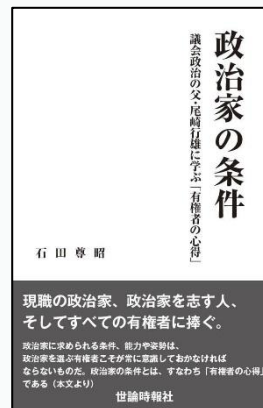
石田理事長の貴重なサイン本を、ありがとうございました。素晴らしいタイトルに感動しました。一番印象に残ったのは「本質を見極める力」の章で「誰が正しいかではなく、何が正しいか」という一節です。本日の理事長のお話を伺った後、改めて拝読させていただきたいです。

■石田理事長のお話

今日お話する機会をいただき、ありがたく嬉しく思っています。5 月に『政治家の条件—議会政治の父・尾崎行雄に学ぶ「有権者の心得」—』を出版し、8 月 27 日に出版記念の集いを開催しました。改めて皆様に参加頂きお礼感謝の気持ちを伝えます。大槻会長からも大変あたたかい挨拶をいただきました。

この本は、一言でいえば尾崎行雄の政治姿勢についての本です。尾崎の一番の特徴は「誰が正しいかではなく何が正しいか」を考えた政治家だったということ。誰が正しいかは思考停止を意味します。自分の頭で考え抜いた時に社会や国にとって望ましいのか本当に正しいのか、自分の頭で考えること。これが民主主義に必要と訴えたのが尾崎行雄。みなさんのイメージは民衆に寄り添い国民の言葉を伝えた政治家かもしれません。それは、そうだが国民を信頼するからこそ、国民の危うさを常に指摘し厳しい言葉を投げかけたのが尾崎です。

尾崎は、終戦後の 1945 年 12 月天皇陛下に拝謁した時に「今日は御所きのうは獄舎あすはまた地獄極楽いづち行くらん」と詠んだ。自分の政治的主張は変らないのに、3 年前には不敬罪で拘置所にいれられ、戦後は手のひらを返したように憲政の神、平和主義者ともてはやされる変化に危うさを感じた。どっちに行くんだ、国民



は自分の頭で考えているのか、と詠んだ歌です。尾崎は権力にも迎合しないし、大衆にも迎合しなかった。熱しやすく冷めやすい国民性を厳しく批判し、それではいけないと率直に説いたのです。

政治家を選ぶ有権者も一番大事だと尾崎は言い続けた。先ほど、平間さんが本のタイトルに感動したと行って下さいましたが、2行目は「議会政治の父・尾崎行雄に学ぶ有権者の心得」です。そういった政治家を我々有権者が望み、育み、選出していかなければならない。尾崎は権力、例えば閥族政治を批判しますが、同時にそういった政治を許している国民のことも指摘し続けた。尾崎の投げかけた厳しさを、どれだけ考え抜いて投票し、行動していけるか。誰かが平和にしますといって平和になるわけではない。我々国民、民衆の側が平和とは何かを考え抜くこと、やれることはやるのが大事。

その行動をしているのが一冊の会です。一冊の会は、自分たちで見て、経験し、体験し、本当に必要なところに必要な物を届けてきました。未来を担っていく女性や子供自身が識字力をつけ経済力をつけて権利を向上する、そういうことが大切だと思うから続けてきた。大槻会長が58年頑張って活動された事を我々は見て仲間として一緒に支えてきました。だからといって、会長の後ろを付いていこうと言っていたら民主主義にはならない。誰か1人が率いてその人が先頭に立ちその後を付いていく、というのは一冊の会ではない。会長のやってきたことを我々の責任として、思いをきちんと引き継いで自分自身の頭で考えて歩いていくことが大事。みんなが手と手を横に取り合って横一列になって力強い団結と絆で前進していくのが一冊の会です。

尾崎行雄の民主主義、政治姿勢 有権者の心得、これらが全部一冊の会につながっています。大槻会長から学んだことや尾崎行雄のこういったところも参考にしながら、全員で盛り上げていきましょう。これからの20年30年が大事です。是非一緒に頑張っていきましょう。

■FAWAについて（三坂 FAWA 事務局長）

本来なら2020年に開催予定でしたが、コロナパンデミックやウクライナ戦争がおり、FAWA 各国メンバーとも何度も話し合いながら検討を重ねました。当初国際交流基金の補助金申請は通らなかったのですが、結果コロナで全ての会議もなくなってしまいました。

振り出しに戻って東京誘致活動を春から始めて、東京都の援助を受けるために補助金申請をして第1歩を踏み出しております。会場として国立オリンピック記念青少年センターを優先的に利用することができるようになりました。2023年9月に開催予定をしています。細かいことはこれから発信させていただきますが、皆様の団結の賜物です。新しいメンバーも加わっておりますので、よろしくお願いします。



画面上で記念写真をパシャリ！

文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員、山内事務局次長

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2020 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.